

平成26年度 教育事業実施報告

- 1 事業名 「ジュニアチャレンジ淡路島一周」
- 2 期 日 平成26年8月17日（日）～24日（日） 7泊8日
- 3 募集定員 16名
- 4 参加者 16名（参加申込者22名、参加取消者4名）
※抽選により参加者を決定
- 5 参加者内訳 小学5年生9名、6年生7名
（男子13名、女子3名）
（南あわじ市4名、洲本市2名、淡路市2名、神戸市1名、西宮市1名、稲美町1名
和歌山県1名、徳島県1名、香川県1名、三重県1名、福島県1名）

6 実施プログラム

日時		活動内容	宿泊場所	移動距離
8月17日（日） 天気：晴時々曇り 最高気温： 30.3℃	9:00～9:20	受付（交流の家）	南あわじ市伊加利公民館	15.5km
	9:20～9:30	スタッフ紹介、アンケート実施		
	9:30～10:20	仲間づくり（参加者対象） 保護者説明会（保護者対象）		
	10:30～11:00	出発式・出発		
	17:00	到着（南あわじ市伊加利地区）		
	17:30～19:00	入浴（ゆとりっく）・夕食		
	19:00～20:00	まとめ		
	21:00	就寝		
8月18日（月） 天気：晴れ 最高気温： 31.5℃	4:00～5:00	起床・準備	洲本市立都志小学校	19.6km
	5:00～15:30	出発・移動・到着		
	15:30～16:30	入浴（ゆーゆーファイブ）		
	16:30～18:00	まとめ		
	18:00～19:00	夕食		
	19:30	就寝		
8月19日（火） 天気：晴れ 最高気温： 32.6℃	4:00～5:00	起床・準備	民宿 さざ波荘	28.3km
	5:00～16:30	出発・移動・到着		
	16:30～19:30	入浴（松帆の郷）・夕食		
	19:30～21:00	まとめ		
	21:00	就寝		

8月20日(水)	4:00～5:00 5:00～15:00 天気:晴れ 最高気温: 31.5℃	起床・準備 出発・移動・到着 まとめ 入浴・夕食 就寝	民宿 浜乃家	24.2km
8月21日(木)	4:00～5:00 5:00～15:00 天気:晴のち曇り 最高気温: 31.3℃	起床・準備 出発・移動・到着 入浴(エトワール生石)・夕食 まとめ 就寝	洲本市由良公民館	24.7km
8月22日(金)	4:30～5:30 5:30～15:00 天気:曇り 最高気温: 29.6℃	起床・準備 出発・移動・到着 まとめ・入浴・夕食 就寝	灘いきがい創造センター	17.9km
8月23日(土)	5:30～6:30 6:30～13:30 天気:晴れ 最高気温: 31.0℃	起床・準備 出発・移動・到着 まとめ 夕べのつどい 夕食・入浴 就寝	国立淡路青少年交流の家	15.0km
8月24日(日)	6:30～7:00 7:00～7:20 7:20～9:00 9:00～11:30 11:50～13:00 13:00～15:00	起床・準備 朝のつどい 朝食・退所準備 全体まとめ 昼食・休憩 報告発表会・閉会式		

※最高気温は、気象庁発表のデータを記載(8/17・8/22・8/23:兵庫県「南淡」、8/18・8/19:兵庫県「郡家」、8/20・8/21:兵庫県「洲本」)

7 プログラム内容

1日目、受付終了後、参加者は仲間づくりとして16人全員で自己紹介をした。まず、自分の名前や好きな食べ物、好きなスポーツ、淡路島一周に対する想いを書いた紙を持ち、円形にした席に座りお互い発表しあった。別室では所長から事業の説明があり、保護者からこの事業に子供を参加させた理由と、事業後どのようになってほしいか等の発表があった。午前11時に交流の家を出発し、1日目の宿泊場所である南あわじ市伊加利公民館までの15.5kmを移動した。天気は晴れで、出発時は日差しが厳しかったが、峠越えの山道ではくもり空に変わった。参加者は共通の話題で話はずませ少しずつ人間関係を築いていた。一方、地図の



読図で苦労し道に迷う場面がみられたが、正しいルートを見つけ二班とも17時までに伊加利公民館に到着した。夜は、各班に分かれて淡路島の白地図に今日歩いたコースを色ペンで記入し、歩いた距離と感想を書き込んだ。また、ふりかえりシートにその日のまとめを記入し、班全体で感じた事や次の日の目標を話し合い、出発時間・歩くペースなどを確認した。

2日目は、洲本市立都志小学校までの19.6kmを移動した。天気は晴れて風を感じながら歩みを進めた。日中は日差しが厳しくしばしば休憩を取りながら、1班が13時28分、2班が15時33分に無事宿泊場所に到着した。夜のまとめの時間では、次の日の移動距離が28.3kmと今回の最長区間になるので、「歩くペースをよく考えて班を引っ張っていきたい」、「自分の役割を考えて歩きたい」、「他人任せにしないように地図を一緒に見て行動する」などの意見が出た。



3日目は、今回の最長区間である淡路市野島地区にある民宿さざ波荘までの28.3kmを移動した。この日も晴天で、気温の高い一日であった。途中、参加者の1人が体調を崩し病院へ搬送し医師の判断でチャレンジ中止となった。連日の疲労が溜まってきて、ほとんどの参加者は足の痛みを感じており休憩をとる場面が増えた。海岸線を北上する歩道がない道路がほとんどであるため、最後尾の職員が後方より自動車がかかるたびに声をかけるなど、特に安全確保に配慮した。夜のまとめの時間では、「明日は少し歩く距離が短くなるけど油断せず、今日の調子でがんばりたい」「先頭で歩く場合は、後ろの人にも気を配って歩く」、「自分に負けて弱音を吐かない。自分の体調を周りの人に伝えることができるようにしたい」など意見が出た。

4日目は、淡路市佐野地区にある民宿浜乃家までの24.2kmを移動した。天気は晴天で、昨日より気温は上昇し、暑さの厳しい一日になり、熱中症が心配された。国道28号線を南下するルートで、比較的広い歩道が確保されているところが多く、2つの班が一緒に話しながら楽しく歩く区間があった。疲れの溜まる参加者に対しては、こまめな水分補給や休憩を取るよう注意を呼びかけた。また、車の交通量がこれまでより多くなり、歩道が狭くなると隊列を一行にすることや後方からの自動車に注意するなど徹底した。暑さに負けることなく15時すぎに参加者全員が宿舎に到着することができた。まとめでは「少し歩くのに慣れて、昨日よりがんばれた」「自分の役割が果たせるようになった」「班全体の雰囲気を考えて休憩などの意見を皆に伝えたい」などの意見が出た。



5日目は、洲本市由良公民館までの24.7kmを移動した。少し雲が見られたものの晴天であった。洲本市内に入る国道28号線は、一部歩道の幅が極めて狭く危険な区間があり、参加者は足早にその区間を歩いた。各班最後尾の職員が、隊列から少し距離をとった位置で手を挙げ後方から追い抜いてくる自動車に対して歩行者の存在を知らせるなど、特に安全確保に配慮した。連日の移動による疲れ

はあるものの、適度な休憩と沿道の方からの励ましもあり、予想より早く宿泊場所に無事到着した。まとめでは、「疲れていても他人任せにしない」、「他の子に気遣いができるようにしたい」などの意見が出た。

6日目は、灘いきがい創造センターまでの17.9kmを移動した。天気は曇りで蒸し暑い1日であった。前半は山越えがあり、参加者はお互いのペースや体調を確認しながら適宜休憩と水分をとりながら山岳路を歩いた。後半は延々と続く海岸線を励ましながらか歩き、15時すぎに無事宿泊場所に到着した。到着後のまとめでは「明日のゴールを考えるとワクワクする」、「最後の区間、自分の役割をよく考えて行動したい」などの意見が出た。3日目に体調を崩しチャレンジを一時断念した参加者も回復し、最終ゴールを目指し合流した。



7日目は、ゴールである国立淡路青少年交流の家を目指して15.0kmを移動した。6日目と同じ前半山岳路、後半海沿いのルート歩いた。参加者は途中休憩した公民館で地元の方々から激励を受け、気持ちをリフレッシュすることができた。移動中、疲れた様子もあまり見られず、13時30分ゴールである国立淡路青少年交流の家に無事到着した。到着直後、感激の涙を流す参加者の姿もあり、



145.2km完歩はそれぞれにとって大きな挑戦であり、やり遂げた達成感は大きな自信になったと感じた。その日のまとめでは、「いろいろあったが、本当にゴールできてうれしかった」、「みんなとゴールできて感動した」、「泣いてしまった自分にびっくりした」などそれぞれ充実感に満ちた意見が出た。

8日目（最終日）の午前中は、淡路島一周を歩き終えての全体のまとめを行った。各自が淡路島一周を歩いた7日間で書いたふりかえりシートを参考に、「チャレンジしたことやがんばったこと」、「自分のことについて、気づいたこと」、「グループのことについて、気づいたこと」、「これから家や学校に戻ってがんばっていきいたいこと」についてまとめ、宣言文を作成した。



午後は、保護者を交えての発表会及び閉会式を行った。所長あいさつの後、淡路島一周中に撮影したスライドショーを鑑賞し、午前中に書いた宣言文を一人ひとりが発表した。参加者の中には涙とともに想いが溢れる宣言もあった。その後、完歩証明が所長から一人ひとりに手渡され閉会した。

- 8 広報の方法 南あわじ市教育委員会と連携し、南あわじ市「わんぱく塾」の一環として南あわじ市内の全小学校5、6年生児童に対してチラシを配布した。また、淡路島内（洲本市・淡路市）及び徳島県内各小学校に募集要項を配布するとともに、当所HPを通じて広報を行った。
- 事業に関する取材を各種メディアに依頼し、新聞4社と地元ケーブルテレビより、取材を受けた。また、今年度はじめての試みとして、民間の野外教育団体が運営する情報サイト「キャンプ KANSAI」のホームページにも募集内容を掲載して広報を行った。

- 9 参加者の声
- ・ 最初は歩くのがつらくて仕方がなかった。班の子たちに迷惑をかけて、これではいけないと思って頑張った。ゴールの瞬間は感動だけだった。
 - ・ みんなの前で意見を言うのが苦手でした。淡路島を一周する間に自分も他の子に意見を言わないといけないと思うようになり、少し自信が持てるようになった。
 - ・ 淡路島一周に挑戦する前は「めんどくさい」「無理」と言うことが多かったけど、歩いている間班の子もがんばっているのを見て弱音は言えないと思った。歩いている間いろんなことを考えることができた。ゴールは意外と近く感じた。
 - ・ 145.2km完歩なんて自分にできるのか不安だった。2日目・3日目と足の裏やふくらはぎの痛みがひどく、本当につらかったが我慢をしているうちに自分も歩けるようになった。少し心の体力がついたように思う。完歩できて自分に自信が持てた。
 - ・ 申込みをした後、初めて会う子たちと仲良くなれるか不安だった。実際は普通に話ができて仲良くなれた。社交的な自分を見つけることができた。
 - ・ 暑さに負けて、ついて行くので精一杯だった。ふりかえりで同じ気持ちだった子がいたことがわかり、その子と一緒にがんばろうと話し合った。ひとりでは逃げ出していたかも。学校でも困っている人がいたら声をかけて一緒にがんばっていきたい。
 - ・ 地図の見方がわからず班に迷惑をかけた。落ち込んで先頭を歩くのもいやになった。ふりかえりで「間違ってもいいからどんどんチャレンジしていこう」と言われ、正しく地図が見られるようになってみんなの役に立ちたいと思った。いつもは逃げていたけど今回はがんばれた。これからの自信になった。
 - ・ 最初はおしゃべりに夢中で、周りに気遣いもできずに班はバラバラだった。ふりかえりでみんなの意見を聞いて自分の役割を考えるようになった。みんなで意見を出し合って行動できたので、班のまとまりができてきて歩くのも楽しくなっていった。最後は全員でゴールできて本当によかった。
 - ・ 日差しがきつく歩くのが大変だった時に他の子がやさしい声をかけてくれた。がんばれたし、うれしかった。私もそんなことができるようにこれから気を付けていきたい。
 - ・ 新聞にジュニアチャレンジの記事が載った後、街中や車から応援の声をかけてもらった。みんな疲れていたけど元気ができて挨拶を自分からできるようになった。声をかけられることでこんなにパワーがもらえとは知らなかった。

- 10 担当者所見 本事業は、「淡路島一周踏破という大きな挑戦を通して、仲間の大切さや協力することの重要性を学ぶとともに、人間としての強さやたくましさを育む。」ことをねらいとして実施した。

事業全体の所見として、次の3点が挙げられる。

1) 毎日のまとめの時間の重要性

到着後、その日をふりかえってまとめの時間を取った。まとめの時間では、淡路島の白地図を用いて、その日の出発地・到着地・今日歩いたルートを記入させ、その道のりを確認した。また、ふりかえりシートを用いて、「今日の目標は達成できましたか」「他人任せにせず、考え、行動できたか」などの項目についてふりかえり、「明日、どのようにがんばりたいか」を発表しあった。ふりかえりシートには、できるだけ具体的に書くように

指示をしたが、疲れた中でよく考え想いを表現することについて個人差があった。まとめの時間は、翌日の活動につなげる大切な時間であるが、参加者の疲労の度合いによっては実施しづらい場面があった。子どもの想いを引き出すのに時間がかかり、ふりかえりの進め方の難しさを感じた。一日目の目標づくりは出発前の仲間づくりの時間におこなったが、これから始まる取組に向けてのイメージが十分できず、ぼやけた内容になってしまった。

また、最終日のまとめでは、午前中全体を通じて「チャレンジしたことやがんばったこと」、「自分やグループについて気づいたこと」等をふりかえり、気づいたことを今後日常生活にどのように活かしていきたいのか、これまでのふりかえりシートを参考にして各自でまとめた。そして、午後の閉会式でスタッフ・保護者を前に「私の宣言文」として発表したことで、このチャレンジを今後の生活につなげようとすることができた。

ふりかえりをするにより、最初は自分のことしか話せない子どもたちが、徐々に班員との関わり合いを考えるようになった。気付いたことを話し合い、明日に向けてチームワークを保つためにどうすればよいか、意見を述べる場面が日を追って増えてきた。体力的に歩くことが厳しくなり、班内での役割が果たせない子の苦しい想いを班員全員で共有し、それぞれの立場で何ができるか考え言動に示せるようになった。その結果、参加者は淡路島一周145.2kmを完歩する大きな挑戦が達成できた。日々の目標や課題を意識しながら歩ききったことで、困難なことに立ち向かう勇気や成し遂げた時に湧き上がる感動と達成感、友達の大切さやお互いを思いやる気持ちの大切さを強く体感したと思う。淡路島一周で学んだことや感じたことを、それぞれが今後の生活に活かして欲しい。

2) 職員、リーダーの介入の仕方

参加者が決断できることは参加者に決断させ、移動中の安全面全般に関することや読図に関すること以外は、職員やリーダーはむやみに介入をしない方針で指導に当たった。例えば、歩くペースや休憩のタイミングは自分たちで決めた。初日は地図の見方や現在地の把握の仕方、歩くペースや休憩の取り方など、必要最低限の技能は職員から参加者へ伝えたが、2日目以降はルートが間違っているにもかかわらず参加者が気付くまで見守っていた。そうすることで班員同志が積極的にコミュニケーションを取るようになり、仲間意識が芽生え問題の解決につながった。また、班内での決定事項は、班付きの職員やリーダーに報告してから動くようにすることで班員の共通理解が確認でき、集団の動きにメリハリがつくようにした。

ただし、実際の状況で具体的にどこまで介入し、どこからは介入しないかという点や、介入の強弱についてその場面ごとにスタッフ間の対応に温度差があった。例えば、食べ物好き嫌が多く口をつけない参加者への指導やトラブルの原因をつくった参加者への指導など、粘り強く対応することでその参加者なりの変容を期待したが、短い期間では難しさを感じた。

3) 事業日数やコースの設定

昨年の反省に立って、今回はできるだけ淡路島の海岸線をコースに設定し、7日間かけて時計回りに一周した。また、交流の家を出発・最終ゴールにすることで一周した実感を持たせた。7日間という日数は、小学生には適当な日数であった。ただし、区間ごとの距離で考えると、5日目・6日目は距離が比較的短く、参加者に少し余裕が見られチャレンジしている実感が少ないという意見がボランティアからあった。距離とコースをより検討して毎日が充実したコースの設定が必要である。